教材研究ノート№3-A-4

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・（2位数）±（2位数）の繰り上がり，繰り下がりのある筆算の計算ができる。

・筆算の意味やアルゴリズムについて学習してきている。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10の束をつくると繰り上がることを理解している。

○共同追究でのゆさぶり

・各位の数の意味を問うことは，2年で経験している。

○ゆさぶりに対応する経験

・筆算の2つの意味を理解している。

≪学習問題≫

265＋178　の筆算のしかたを考えましょう。

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し:2回の繰り上がりの処理の仕方が分からない。

→10の束のまとまりをつくって繰り上がりを処理すればよい。

②学習課題:10の束のまとまりをつくって，繰り上がりが2回ある筆算の計算方法を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：2回繰り上がりがある筆算の計算方法を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どちらの計算方法にも共通していることは何だろう？」

→「どの計算方法も，10のまとまりをつくって繰り上げている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「6＋7＝13なのに，どうして100の位に繰り上がるのか？」

→「6と7は，60と70を表しているから，13ではなく130のことだから百の位に繰り上がる。」

「位をそろえることにより1位数の計算に直している。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・3位数＋3位数の計算も，2位数の計算と同じように10のまとまりをつくれば一つ位を繰り上げて計算できる。

・筆算は位をそろえることにより，簡単に計算できる仕組みだ。

⑥定着･活用問題

１から９までの9枚のカードを下のように並べて，正しいたし算をつくりました。残りの5枚のカードの並べ方を説明しましょう。

　　　　　　□□７

　　　　＋　３５□

　　　　　　□１□

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・単に計算方法を形式的に教えるのではなく，数え棒による操作や2位数の計算との比較から，子ども自身が計算の仕方を説明する活動を大切にしたい。

・繰り上がりや繰り下がりを含む筆算を，きちんと理解しているか評価する上で，虫食い算は有効である。時には虫食い部分を増やして，答えが複数ある問題を扱うなど変化をつけるとよい。

【板書計画】